

平成18年度 第4回 千葉県環境影響評価委員会 会議録

1 日 時

平成18年7月21日（金） 午後1時00分から3時30分まで

2 場 所

君津環境整備センター

3 出席者

委員会：瀧委員長、
横山委員、岩瀬委員、大野委員、田畑委員、榊瀉委員、鍋島委員、柳澤委員、
山下委員

事務局：鈴木次長、平井課長、鈴木副課長、
松澤室長、大竹主幹、八木主幹、松田主査、三田副主査、坂元主任技師

4 事 案

- (1) 君津環境整備センター増設事業に係る環境影響評価方法書について
(諮問、事業者説明及び現地視察)
- (2) その他

5 議事の概要

- (1) 君津環境整備センター増設事業に係る環境影響評価方法書について
(諮問、事業者説明及び現地視察)
別紙1のとおり
- (2) その他
次回開催予定、意見等の照会文について事務局から説明

【資 料】

- 1 会議次第
- 2 手続経緯等
- 3 意見照会依頼文

【別紙1】

君津環境整備センター増設事業に係る環境影響評価方法書について(諮問及び事業者説明)

- (1) 議事開始 事務局において資料確認の後、委員長により議事進行
- (2) 事務局説明 当該事案に係る手続の経緯等について、資料により説明
- (3) 事業者説明 資料に基づき内容説明

(4) 質疑等

- 委員：埋立対象廃棄物にある「13号廃棄物」とは、具体的にどんなものか。
- 事業者：「13号廃棄物」とは、「燃えがら」や「ばいじん」などをセメントなどで固化するなど加工したもので、処分するために処理したもののことをいう。
- 委員：ここに来る途中に「建設反対」の看板があったが、誰が立てているのか。何処が反対しているのか。
- 事業者：一つは、少し下流の地域にある会があり、この会の人を立てているものがある。全員が反対しているわけではないが、この施設の最初の設置の時に立てている看板がある。もう一つは、「不法投棄をさせない」という看板が周辺地域にある。「不法投棄をさせない」という看板はこの近辺の地区の協議委員会が建てたもので、基本的には君津環境整備センターで適正処理させようという考えである。先ほどの会は河川の水質などを守るために活動しており、この地区は水のきれいな町といわれていることからこのような看板を立てていると思う。この会に対して、我々も水質にも十分注意を払っており、放流水の水質をCOD、BOD10mg/L以下、SS10mg/L以下で放流するように説明している。また、この会の人たちも当処分場を見学に来ている人もあり、処分の方法を見て納得している人もいるため、全てが反対だというわけではないと考えている。
- 委員：対応はしているということか。
- 事業者：対応は行っている。
- 委員：騒音振動について気になるのは、1日50台通過するため、年1回測定を行うこととしているが、どういう考えで測定点を選んだのか。民家が左側にあるからそこを対象としたと思うが、静かなところで1日50台しか通過しないということで交通量も少ないところで何の音を測るのか。つまり、どういう時間帯にこの50台が偏るのか、1日で平均的に入るのか、ピーク時が問題となる。
- 事業者：基本的な搬入形態は、午前8時30分から午後5時30分までの間で1日50台搬入される。業者をお願いしているのは、だいたい1時間に6～7台で搬入するように、午前中で23～4台くらいで行うようお願いしている。搬入する際の計量所でドライバーに無線を渡して通行しているが、ピーク時の搬入でも無線自体が10台しかなく無線台数からも10台が限界となる。
- 委員：1時間に6台ということで行っているが、日本騒音学会の計算式で行うと1時間に6台という数字を入れても何を計算しているか解らなくなる。むしろ、積載時のダンプの最大パワーから検討を行った方が良いのではないか。1日1000台くらいの高速道路の交通量を測る計算をそのまま適用して良いのか疑問である。
- 事業者：基本的な台数から見れば、言われた通りであると思う。さっきの看板の話もあ

るので、もしそういう質問が来た場合にも対応できるような形を含め、調査を行うという姿勢で考えている。現状で問題がなければ、今後も大丈夫というチェックも兼ねて行う計画をしている。

委員：セオリーに従って理論武装することは大事であるが、さっき言ったように廃棄物を積んだ車が坂を上っていく、このときのピーク値はどのくらいになるか、検討しておくことも必要である。騒音の式の適用範囲からは外れてくるだろうと思われるので、式は式で行い、それ以外に地域性に合わせた評価の仕方としてピーク値などによる方法も考えた方が良い。

委員：埋立で処理されるものの内、有機物はどのくらいになるのか。概ねのパーセントでよいが、いくつくらいか。今すぐ解らなければ次回回答願いたい。

委員長：現状の把握でどうか、今後の予定でどうかお願いしたい。

事業者：了解した。

委員：平成11年に植物や動物について調査を行っているが、その時の資料の一部が載せられているが、その時の現存植生図とかの資料はあるのか。

事業者：現存植生図はない。

委員：最初の段階でこの施設が造成されたときの状況というのとは分からないのか。

事業者：植生図を作るとすれば、その当時のものは、空中写真しかないのを元に作るしかない。

委員：本当はそれが一番知りたかった。

委員：方法書の3-47頁、6-45頁を対照するように見てほしい。6-45頁で動物相の把握でaとbがあるがこれに基づいて、3-47頁の指標昆虫、特定昆虫の表ができていないのではないか。ところが、これに対応する形での6-45頁の現地調査及び調査項目のところが記述がうまく噛み合っていない。例えば、3-47頁に載っている「ヒメハルゼミ」、「オオトラカミキリ」の記載があるが、この「オオトラカミキリ」はモミだけにしか付かないので、これを調査する場合は、ここに記載した方法ではなくてモミについて確認し、その生息痕を確認すれば、この昆虫がいるかないか直ぐ分かる。だから普通の方法と少し違う方法で行った方が良い。重要種として掲げているものは、それぞれ確認法が後で一括して記載している方法と違った方法を取る方が有効である。「ヒメハルゼミ」の場合だと、シイに付くので、大福山のシイの林やそれに準ずる環境を見ていけばよい。6-45頁に記載している方法では、どちらかというところ確認しにくい。特に重要種としてあげたものについては、これに対応するような最適な手法を用いてほしい。何か別な表現を検討してほしい。

事業者：調査担当と相談する。

委員：活動要素の選定において、「ばい煙又は粉じんの発生」のところで、「埋立地は必要に応じて散水し〜」とあるが、「必要に応じて」の基準はあるのか。あくまでも乾燥して風があるから行うとか、そういう単純な発想なのか。

事業者：基準は特に定めていない。風速は測定しているが、埋め立てる現場と異なるため、入った廃棄物の性状により飛散しやすい性状のものなら散水しながら埋め立てるなど飛散状況を現地で見ながら散水を行っている。

委員：基本的には良いと思うが、事務局に確かめておいてほしい。自然保護課で行っている景観等影響評価の方法では、四季の他に繁殖期に調査を行うこととしているはずである。この方法書の調査内容に入っているか確かめてほしい。猛禽類についての対応は、記載のとおりで良い。

委員：千葉県は不法投棄の多い県であるみたいだが、最終処分場の処理費用はどれく

らいかかるのか。

事業者：廃棄物の種類によっても変わるが、だいたい一般的には1トン当たり3万円くらいが標準である。

委員：県内に管理型の処分場は他にあるのか。

事業者：民間では、大平興産が行っている。

委員：最終処分場の設置の後で、地下水脈の変化など地下水についての住民からの苦情はなかったか。

事業者：苦情は出ていない。

委員：このあたりの住民は、水道がない地区か。

事業者：そうである。この施設も地下水を利用している。

委員：これだけかなり大きな施設を作ったわけだが、地下水脈に変化が出ていないか。

事業者：この現場でも地下水を使っているが、無くなったことはない。

モニタリングで地下水の水の調査も行っているが、変わっていない。

委員長：排水は、環境ホルモン系の項目は行っているのか。

事業者：環境ホルモンについては、年1回調査を行っている。

委員：調査を行っている環境ホルモンの具体的な項目は何か。

委員長：塩類については測定しているか。

事業者：塩化物イオンについて測定している。このあたりの地域の塩化物イオンは、20mg/L位であったが、廃棄物を埋め立てて行き、今放流地点で1000mg/L位まで上がってきている。実際には他の水と混ざって流れていくので、御腹川の下流地点で希釈されて100mg/L以下くらいとなっている。

事業者：環境ホルモンの測定項目は30項目位行っている。

委員：詳しい内容は、後で委員会に提出願いたい。

委員：現在どのくらいまで埋立が終わっているのか。

事業者：現在の埋立量は、廃棄物だけだと12万6千立方メートル、中間覆土などを合わせると17万6千立方メートルとなり、器の107万立方メートルに対して、16%位の埋立量となっている。

委員長：1日50台の搬入量で今後も行っていくということだが、埋立の期間が延びてくるといふことによいのか。

事業者：そうなると思われる。当処分場は、1日50台で制限していることから、ある日45台で行っても、次の日に55台とならず、50台を上限で搬入するため、延びる方向になる。

委員：搬入道路の自動車交通について、下の入り口から搬入までの間の道路で運搬車両による動物のロードキルが起り、死んだ動物が見られると思うが、こういうデータ処理を行ったことはあるか。

事業者：当施設に来て5年になるが、搬入車両が動物とぶつかったという報告は聞いたことがない。

委員長：本日の審議はこれで終了し、現地視察に移る。

－ 以上 －